

令和元年9月3日

予察情報1-7

# 病害虫発生予報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 9月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稻	いもち病（穂いもち）	少ない	—	野菜	白ねぎのネギハモグリバエ	多い	—
	斑点米カメムシ類		—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	並	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—		ハスモンヨトウ	やや少ない	—
	<b>アカスジカスミカメ</b>	並~やや多い	—		ネキリムシ類	並	—
	トゲシラホシカメムシ	並	—		タバコガ類	やや少ない	—
	ツماغロヨコバイ	少ない	—	果樹	果樹のカメムシ類	やや少ない	—
	ヒメトビウンカ	並	—		<b>リンゴの褐斑病</b>	<b>やや多い</b>	—
	セジロウンカ	少ない	—		<b>リンゴのハダニ類</b>	<b>やや多い</b>	—
<b>トビイロウンカ</b>	<b>やや多い</b>	遅い	ニホンナシの黒星病		並~やや少ない	—	
大豆	紫斑病	並	—		<b>ニホンナシのナシヒメシンクイ</b>	<b>やや多い</b>	—
	フタスジヒメハムシ	少ない	—		ニホンナシのハダニ類	並	—
	アブラムシ類	少ない	—		ブドウのべと病	並	—
	ハスモンヨトウ	やや少ない	—		<b>カキ（三社）の炭疽病</b>	<b>やや多い</b>	—
	<b>大豆カメムシ類</b>	<b>やや多い</b>	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	—	
	ハダニ類	並	—	<b>モモのせん孔細菌病</b>	並~やや多い	—	
野菜	白ねぎのさび病	やや少ない	—	モモの灰星病	並	—	
	白ねぎの軟腐病	並	—	花き球根	きくのハモグリバエ類	少ない	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	並	—		ハスモンヨトウ	やや少ない	—
	<b>白ねぎのネギアザミウマ</b>	<b>やや多い</b>	—		タバコガ類	やや少ない	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974  
 情報参考 URL  
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

# I 水 稻

## 1 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 8月20日調査の発病株率は0%で、平年（0.0%）並に少なかった。

(3) 防除対策

・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。

・ 防除指針 30～31 ページ参照

## 2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.13頭で平年（0.22頭）よりやや少なく、確認地点率も2.2%で平年（5.8%）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入が多く見られる場合は追加の防除を行う。

・ 防除指針 40～41ページ参照

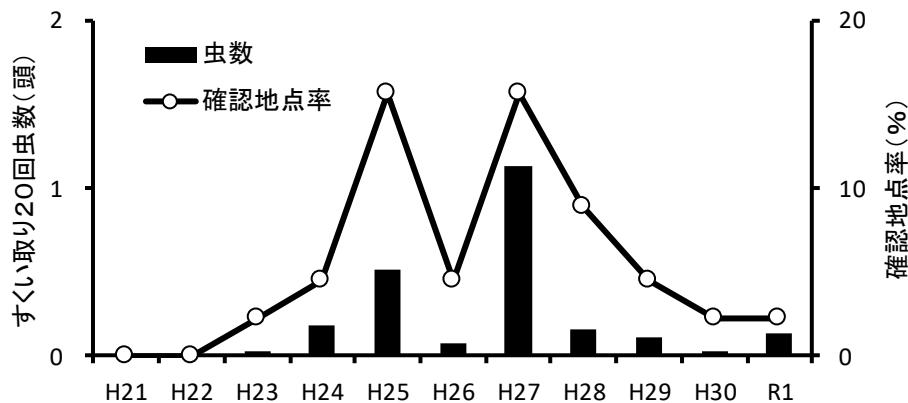


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

## 3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：並～やや多い

(2) 予報の根拠

・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.20頭で平年（0.18頭）並、確認地点率は11.1%で平年（5.8%）よりやや高かった。

(3) 防除対策

・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。

・ 防除指針 40～41ページ参照

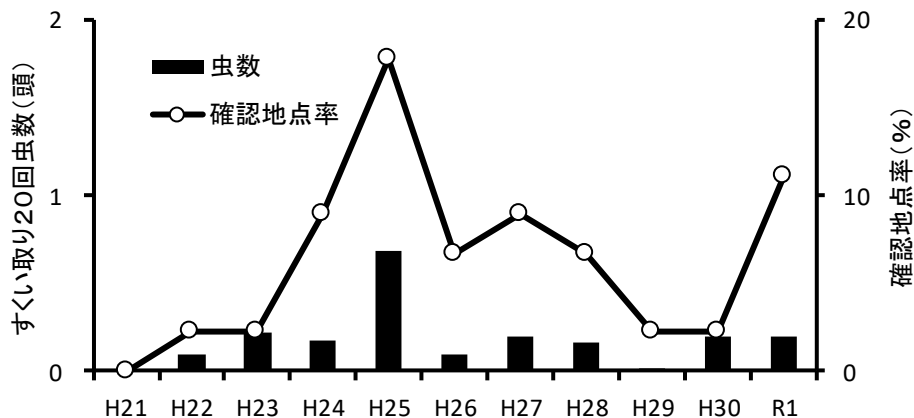


図2 アカスジカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

#### 4 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

(1) 予報内容 発生量: 並

(2) 予報の根拠

- ・8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.05頭で平年(0.06頭)並、確認地点率も4.4%で平年(4.4%)並であった。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 41ページ参照

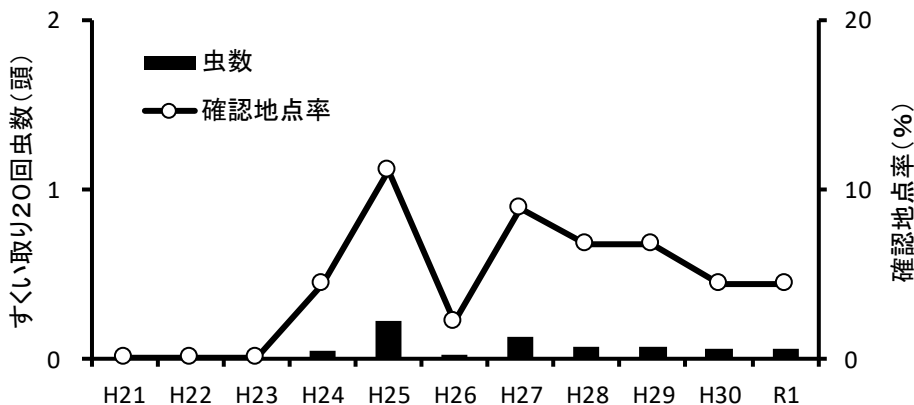


図3 トゲシラホシカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

#### 5 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量: 少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月20日調査の本田すくい取り虫数は3.9頭で平年(15.8頭)より少なく、確認地点率も22.2%で平年(27.5%)よりやや低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 37ページ参照

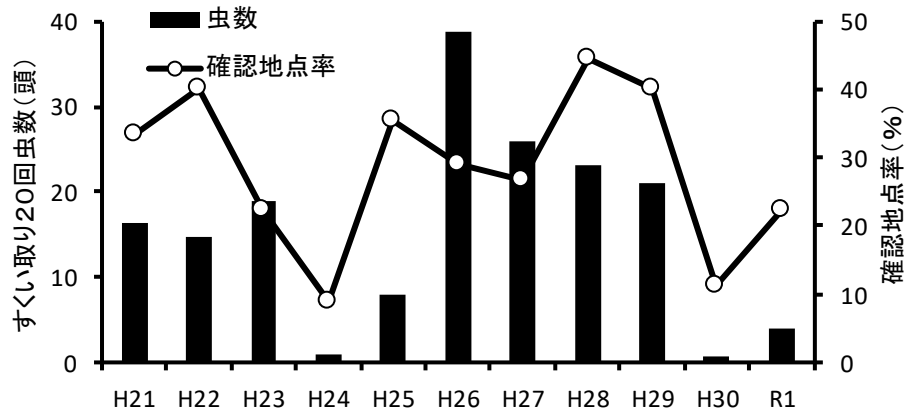


図4 ツマグロヨコバイの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

## 6 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は 102.9頭で、平年(93.4頭)並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 38～39ページ参照

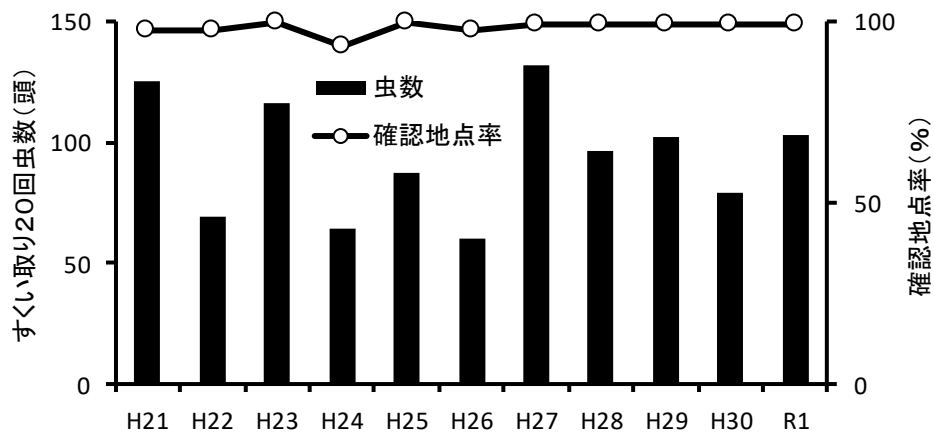


図5 ヒメトビウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

## 7 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は本年0.2頭で、平年(5.1頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 38～39ページ参照

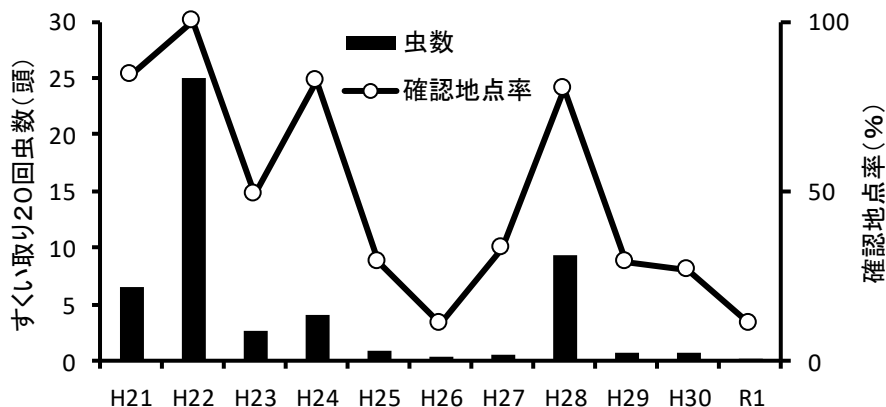


図6 セジロウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

## 8 トビイロウンカ

- (1) 予報内容            発生量：**やや多い**  
                              発生時期：遅い
- (2) 予報の根拠  
    【多発・遅発要因・初発確認】
  - ・ 9月2日の本田すくい取り調査で、複数地点で初発確認されている。  
    (平年の初発は7月25日)。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 38～39ページ参照

## II 大豆

### 1 紫斑病

- (1) 予報内容            発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
  - ・ 刈遅れは発病を助長するので、刈遅れに注意し、収穫後はすみやかに乾燥する。
  - ・ 防除指針 52 ページ参照

### 2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容            発生量：少ない
- (2) 予報の根拠  
    【少発要因】
  - ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.06頭で、平年(0.67頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・ 払い落とし調査を行ってほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
  - ・ 防除指針 55 ページ参照

### 3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月25日調査の寄生株率は0%で、平年（4.3%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 54 ページ参照

### 4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は148頭で、平年（197頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 55 ページ参照

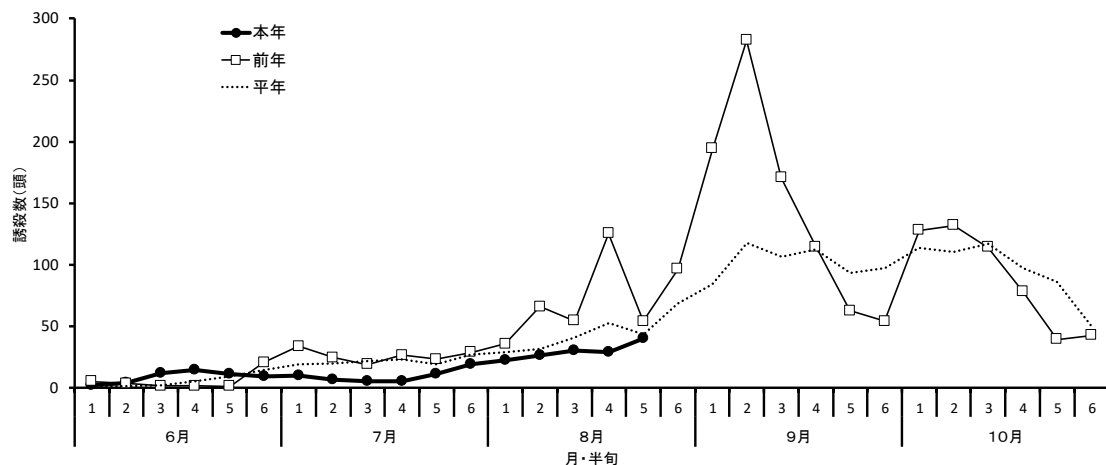


図7 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

### 5 大豆カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 重要防除時期である8月中～下旬に降雨日が多かったため、適期防除ができなかった。

- (3) 防除対策

- ・ 多発が懸念されるほ場では、ほ場周辺部を中心に払い落とし調査を行い、発生が見られたら防除する。
- ・ 防除指針 54 ページ参照

## 6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 8月25日調査の被害株率は21.1%で、平年（17.6%）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
  - ・ 防除指針 53 ページ参照

## Ⅲ 野菜

### 1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
  - ・ 8月25日調査の発病株率は0.8%で、平年（1.5%）よりやや低かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 109 ページ参照

### 2 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
  - ・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
  - ・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
  - ・ 防除指針 110 ページ参照

### 3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 8月25日調査の発病株率は12.8%で平年（11.6%）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ さび病の防除に努める。
  - ・ 防除指針 110 ページ参照

#### 4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月25日調査の被害株率は55.2%と平年(53.6%)並であったが、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 112～113 ページ参照

#### 5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月25日調査の被害株率は38.4%と平年(18.8%)より高かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 111 ページ参照

#### 6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は46.2頭で、平年(54.7頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 112 ページ参照

#### 7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は148頭で、平年(197頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 78～147 ページのハスモンヨトウの項を参照

#### 8 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが35.4頭で平年(32.7頭)並、カブラヤガも79.7頭で平年(69.7頭)並であった。

(3) 防除対策



- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 82～144 ページのネキリムシ類の項参照

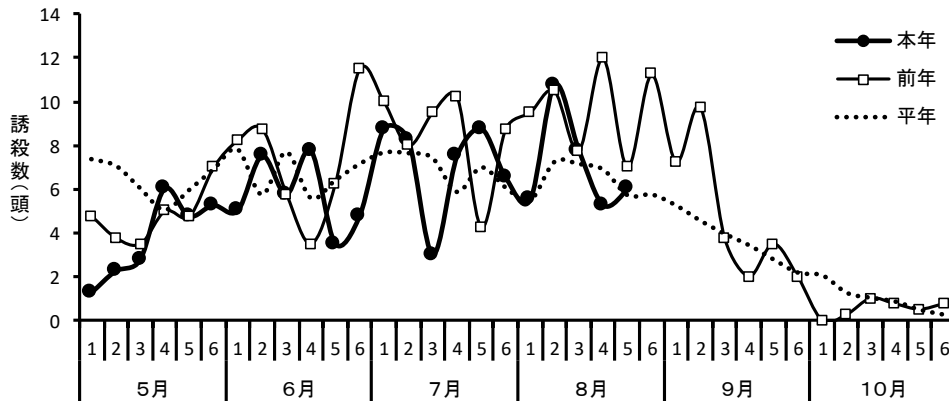


図8 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

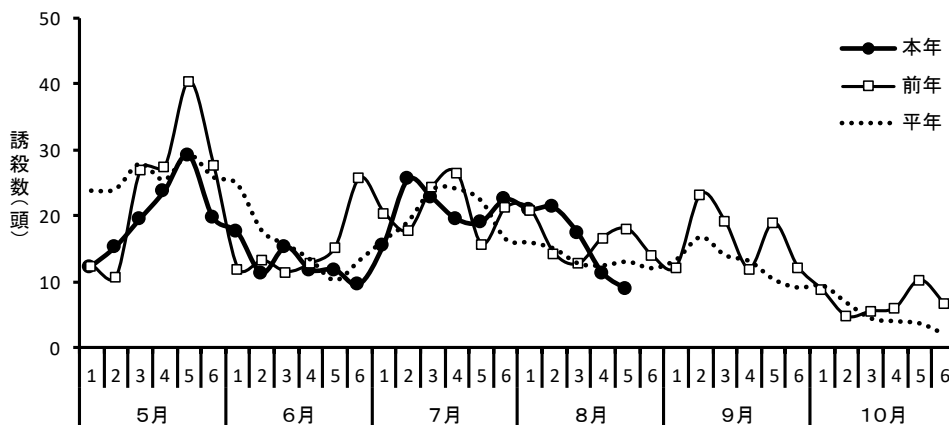


図9 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

## 9 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが40.3頭で平年(66.6頭)よりやや少なく、オオタバコガも58.7頭で平年(77.8頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 79～145 ページの野菜のタバコガ類の項

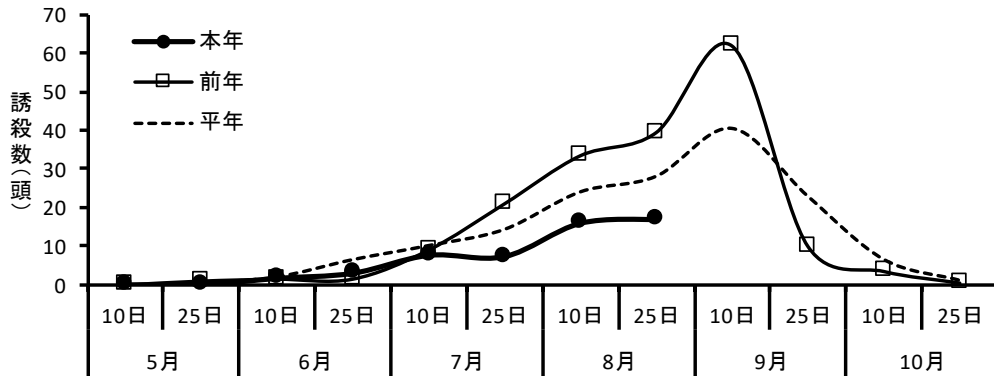


図10 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

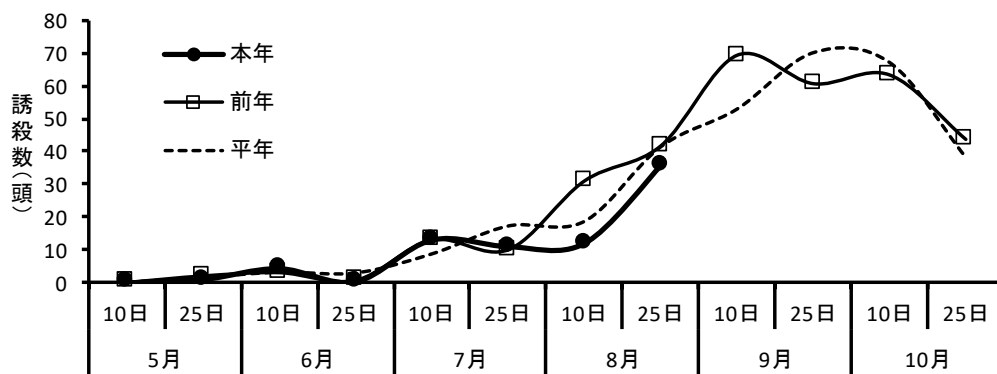


図11 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

## IV 果 樹

### 1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は0.4頭で平年(3.2頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・園内への飛来が確認された場合は、速やかに防除を実施する。
- ・収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針 リンゴ156, 159ページ、ニホンナシ167, 170ページ、カキ180ページ参照

### 2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合は、防除を実施する。
- ・降雨で防除間隔が開きすぎないように、適期防除に努める。
- ・防除指針 152～154, 158～159ページ参照

### 3 リンゴのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・これまでの発生量はやや多く、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・草刈り後に防除を実施する。徒長枝を切除する等、薬剤透過性を向上させる。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 155, 157ページ参照

### 4 ニホンナシの黒星病

(1) 予報内容 発生量：並～やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・これまでの発生量は並～やや少なかった。

(3) 防除対策

- ・発病した果実や葉は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、適切に処分する。
- ・発生が多い園地では、収穫前および収穫後に防除を実施する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 163～166, 169ページ参照

### 5 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は27.8頭で平年（28.5頭）並であったが、早生品種収穫時のナシヒメシンクイによる被害果はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・昨年発生の多かった園地や被害果の発生が見られる園地では、防除を実施する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・被害果は見つけ次第、園地外で処分する。
- ・防除指針 163, 166～167, 170～171ページ参照

## 6 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 草刈り後に防除を実施する。徒長枝を切除する等、薬剤透過性を向上させる。
  - ・ 収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
  - ・ 防除指針 168, 170～171ページ参照

## 7 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 173～175ページ参照

## 8 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ 前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 罹病した枝や果実は見つけ次第除去し、適切に処分する。
  - ・ 台風等風雨後は防除を実施する。
  - ・ 防除指針 178～179ページ参照

## 9 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は180頭で平年（297頭）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 178, 180～181ページ参照

## 10 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ これまでの発生量は平年並だが、一部地域で発生が多かった。
- (3) 防除対策

- ・病原細菌の越冬密度を下げるため、9月中旬～下旬にかけてICボルドー412(30倍)を2回散布する。
- ・台風等強風が予想される場合は、強風前に防除する。
- ・防除効果を高めるため、防除前に秋季せん定を実施する。
- ・防除指針 183ページ参照

## 1 1 モモの灰星病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・樹上または地面に落下している被害果は翌年の伝染源となるので、見つけ次第速やかに園外に持ち出し処分する。
  - ・防除指針 183ページ参照

## V 花き・球根

### 1 きくのはもグリバエ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・8月25日調査の被害株率は0%と平年(0%)並に低かった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 207ページ参照

### 2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は148頭で、平年(197頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 209～228ページのハスモンヨトウの項を参照

### 3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが40.3頭で平年(66.6頭)よりやや少なく、オオタバコガも58.7頭で平年(77.8頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 208～228ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

**○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう**

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

**○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう**

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

# 北陸地方 3か月予報

(9月から11月までの天候見通し)

令和元年8月23日  
新潟地方气象台 発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

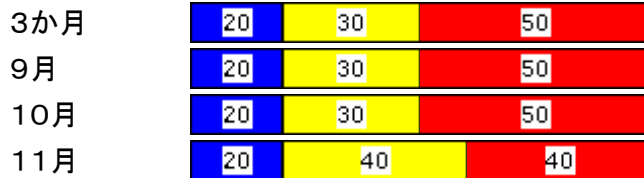
10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

## <向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

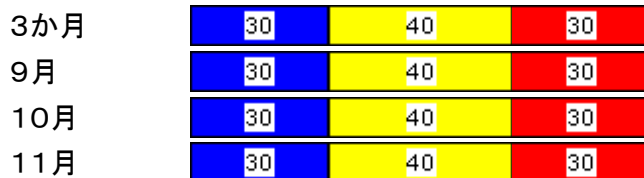
### 【気 温】

[北陸地方]



### 【降 水 量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)